拒絶理由通知書

特許出願の番号

平成11年 特許願 第272950号

起案日

12

平成16年10月29日

特許庁審査官

松尾 俊介

9749 5H00

特許出願人代理人

大塚 康徳(外 5名) 様

適用条文

第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において 頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属 する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができた ものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができな い。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- 請求項 1-12
- ・引用文献 1,2
- 備考

引用文献1には、ネットワーク(2)を介して送られてくる、ページ記述言語によって記述された描画データ(具体的には、矩形の4頂点のXY座標)を元にグラデーションを生成する装置であり、グラデーション生成部(14)はグラデーションの生成の際に、ラインバッファ(16)に一走査分のグラデーションパターンを先に展開して保持し、しかる後に、このグラデーションパターンをコピーすることによりグラデーションパターンを生成する装置が記載されている(公報全文、特に【0023】、【0029】、【0050】-【0058】段落、【図12】参照)。

引用文献1に記載された発明と、本願の請求項1に係る発明とを比較すると、 両者はグラデーション方向と異なる方向にピクセルを複製することにより、高速 にグラデーション画像処理を行う装置である点で一致し、次の2点で相違してい る。

PECEIVED
2004. 11. – 5
OHTSUKA PAT

(第1の相異点)

本願の請求項1に係る発明は「水平あるいは垂直方向のいずれか一方向にグラデーションを持つグラディエントフィルオブジェクトであるかどうかを検知」するものであるのに対し、引用文献1にはそれに関する記載がない点。

(第2の相異点)

本願の請求項1に係る発明は「前記検知手段により検知されたグラデーション方向と直交する方向にあって、実質的に同じ階調値を持つ連続するピクセル数を検知するピクセル数検知手段」を有するものであるのに対し、引用文献1にはそれに関する直接的な記載がない点。

上記相異点に関して検討する。

(第1の相異点に関して)

引用文献2には、垂直方向および水平方向のグラデーションデータを掛け合わせることにより、斜め方向のグラデーションデータを生成する技術が開示されている(公報【0065】段落参照)。このとき、描画対象の画像のグラデーション方向が垂直方向または水平方向であるか、あるいは斜め方向であるかを検知することは当然の構成である。そして、引用文献1に記載されたグラデーションパターン生成装置に、引用文献2に記載された斜め方向グラデーションデータ生成方法を付加することに、格別の困難性は認められない。

(第2の相異点に関して)

描画対象のグラデーションをどのように定めるかは、描画しようとする目的に 応じて適宜決めうるものである。例えば、水平方向のグラデーション矩形画像を 描画する際には、描画する走査数=実質的に同じ階調値を持つ連続するピクセル 数 に相当する。したがって、引用文献1に記載された発明は、描画対象の種類 によっては「前記検知手段により検知されたグラデーション方向と直交する方向 にあって、実質的に同じ階調値を持つ連続するピクセル数を検知するピクセル数 検知手段」に相当する構成を有しているといえる。

したがって、本願の請求項1に係る発明は、引用文献1及び2に記載された発明から当業者が容易になし得たものである。本願の請求項2-12に係る発明も同様である。

拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

RECEIVED
2004. 11. -5
OHTSUKA PAT

- 1.特開平11- 25282号公報
- 2.特開平 9-259258号公報

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 IPC第7版
- ・先行技術文献
 - 1. 特開平 4-306499号公報
 - 2. 特開平 9-272252号公報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。



この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がござい ましたら下記までご連絡下さい。

> 特許審查第四部 画像処理 松尾俊介 TEL. 03(3581)1101 内線3531 FAX. 03(3501)0715